

岡山 史料ネット Newsletter Vol. 3 2020. 3

修復された富岡家資料の屏風絵

活動報告 (2019年8月～2020年1月)

1. 西日本豪雨被災資料修復・整理作業

2018年の西日本豪雨により被災した歴史資料の修復・整理活動を引き続き行っています。この間の活動日数は計5日、ボランティアの延べ人数は19名でした。

みなさまのご協力により作業は順調に進んでいます。例えば、岡山市北区御津町で被災家屋の片付けボランティアによってレスキューされた、武藤家文書のドライクリーニングと目録作成が完了しました。目録作成と同時並行で行った調査の結果、岡山を襲った明治20年代の水害後に形成された史料群である可能性が高いことや、日露戦争の戦地からのはがきが多数あることから軍事郵便研究への貢献が期待しうることが明らかになりました。

2. 山崎家文書受け入れ

2019年11月7日、西日本豪雨により倉敷市真備町で被災した山崎家文書を新たにお預かりしました。経緯は以下の通りです。2019年秋の台風によって被災した歴史資料救出活動を伝える報道に接し史料ネットの存在を知った所蔵者から、



修復・整理作業

神戸大学を拠点とする歴史資料ネットワークへ連絡がありました。そして同ネットの仲介により、岡山ネットが本史料群をお預かりすることになりました。

本史料群は全30点ほどで、所蔵者の先祖が居住していた丹波篠山に関するものが多く、18世紀から19世紀にかけての、篠山の地図、算術書、祝いの席の献立などが確認されています。今後、ドライクリーニングや状態によっては洗浄処置を施す予定となっています。

3. 富岡家資料返却

2020年1月15日、修復を終えた富岡家資料(屏風絵)を倉敷市真備町の所蔵者に返却しました。



岡山史料ネットの「2018年7月豪雨災害被災地域の文化財修復活動」は、芸術・文化
による災害復興支援ファンド(GBFund)より、助成金の採択を受けました。



山崎家文書

この屏風絵は、もともと六曲一双のものでしたが、西日本豪雨により被災し、カビや腐敗により状態が悪化していました。そこで、連絡を受けた岡山ネットが2018年11月にお預かりし、県内の表具師により約1年かけて修復されました。なお、この屏風には下張り文書があり現在その整理を進めています。

4. 第6回全国史料ネット研究交流集会

2020年2月8日・9日、全国の史料ネット関係者が一堂に会して、兵庫県神戸市の御影公会堂で第6回全国史料ネット研究交流集会が開催され、岡山ネットはポスター報告を行いました。会では、2019年の台風19号による豪雨災害に際して各地でなされた被災歴史資料救出活動についての報告や、1995年の阪神淡路大震災を契機にはじまった史料ネット活動の歩みとこれからの展望についての報告・座談会があり、全体を通じて、歴史資料の保全に関心を持つ方々の交流・情報交換の場となっていました。

(文責・上村和史)

活動参加記

西日本豪雨被災資料 修復・整理ボランティアに参加して

宮田 克成

災害への対応として、紙を挟み込むなどの資料の乾燥の方法やフローティングボード法による資料の洗浄の方法はさまざまな機会に聞いたことがあり、その方法も理解しているつもりでした。しかし、わずかではありますが西日本豪雨の被災現場に立ち、頭の中だけで理解しているだけでは、その知識は十分には活かされないと実感しました。そのような時に当修復・整理ボランティアの募集案内を見つけ参加させていただきました。もちろん貴重な歴史資料を後世に伝えるためのお役に立ちたいという思いもありましたが、経験の場を求めているというのも事実でした。

そしてボランティアに参加していろいろな作業を体験させていただくと、やはり机上の勉強だけでは知りえない多くのことに気付くことができました。劣化を防ぐために冷凍保存された古文書。それを洗浄するために解凍し、折りたたまれた古文書を開いていくのですが、その作業だけでも多くの時間を要します。ただ洗浄作業も経験していたので時間よりも、どのような状態だと後の洗浄が困難になるか、何がしてあると洗浄の際にありがたいかなどを考えながら作業できるようになったと思っています。これもさまざまなことを経験させていただいているお陰です。また高価な専門の道具だけでなく、身近な物も工夫次第で利用することができることも勉強できました。これなら、自分の職場でも活用できると言うことを多く学びました。

ボランティアと言いながら、実は私がさまざまなことを経験させていただき、今後自分の職場で活用できることを勉強させてもらっています。

以前、白水智さんの『古文書はいかに歴史を描くのか』という本を読んだ時、歴史資料を整理・保存していくことの重要性について、自分なりに考えたことがありました。この本では2011年の長野県北部地震の被害に遭った、長野県栄村での歴史資料救出活動についても書かれており、災害等の被害に遭い、失われていく歴史資料の救出・保全活動が、多くのボランティアの手で支えられていることを知りました。そんな中、身近で発生した西日本豪雨に際し、救出された被災資料の修復・整理作業の存在を聞き、自分にも何かできることはないかと思い、ボランティア作業に参加することとなりました。

初めて作業に参加した際には、セスキ水溶液に浸して洗浄した一紙ものの古文書に、吸水用のタオルを押し当てて水分を取り、キッチンペーパーで古文書を挟んで、さらにそれを段ボールで挟むという作業をしました。それ以降は、冷凍保存していた古文書を解凍したものを、竹串等を使って展開していく作業や、襖裏張りとして使われていた糊付けされた古文書を、濡れタオルやアイロンを使って一枚一枚剥がしていく作業をしました。まだ水を含んだ状態の古文書は、すぐにでも破れてしまいそうで、作業の際には慎重に、集中して作業をするよう心がけました。そのためか、作業に参加した際には、あっという間に時間が経っていくように感じます。1回の作業で処置できる量には限りがありますが、この地道な作業が、地域の貴重な歴史資料を未来へと繋げていくための大切な作業だと心がけながら、これからもできる限りお手伝いをできたらと思っています。

倉敷市真備町有井 大日堂の仏像レスキューとその後

寄稿

中田利枝子

■初動

2018年7月7日に発生した西日本豪雨災害により、倉敷市真備町を流れる末政川では有井地区で堤防が決壊した。堤防脇には地域の人々が守る大日堂があり、一気に流れ込んだ水で堂も仏像も破壊された。被災後、一週間ほど経った時、仏像数体を回収している、この先どうしたらよいだろうと連絡が入った。この第一報は、当館職員がかつて教師をしていた頃の教え子（僧侶）からだった。かなり前の師弟の絆が、このレスキューの発端であった。

■応急処置

話を伝えられてすぐに彼（宝生院住職）に連絡を入れ、翌日駆けつけた。一週間もたつてカビは深く根を張っていないか心配であった。到着してみると案の定、高温と多湿で仏像の表面には点々とカビが生えていた。かつて台風に伴う大雨によって博物館

の地下が浸水した事があって、地下に燻蒸待機していた経典類が水濡れした苦い経験がある。その時はすぐに全てを冷蔵庫に保管し、順次一点一点を広げ乾燥させるという作業を何日も繰り返した。今回は水道も電気も使えず、タンクに貯めた温水でこびり付いた粘土とカビを洗い落した。日は沈み作業を終了。日陰でゆっくり乾かすことと乾燥後の消毒を住職にお願いした。現地では手のつけられなかった仏像は博物館に持ち込んでもらうことにした。お堂の管理者の所在はまだつかめなかったが一刻を争う。作業の翌週、未処置の仏像が博物館に搬入され、水洗いと乾燥を済まし、薬剤による燻蒸を行った。

■修復への第一歩

とりあえずの応急処置はした。なんとか手を合わせられる姿に戻ってほしいが、ここで出来るのはここまでと思っていた矢先、岡山史料ネットの協力が



修復中の仏像

得られることになった。表具師や仏師も次々に協力を申し出てくれた。この頃には管理者（信者さん達）とも連絡がつき、修復へ向けての第一歩が踏み出せるまでになった。修復後は博物館での報告を兼ねた公開を企画したところ、信者さん達は心待ちにし、職人さんも期待以上の仕事をしてくれた。仏像は11世紀ころに制作された、古代山陽地方の都会的な文化を伝えるものであると報告したところ、「うちの御堂の本尊様がそんなに古いものだったのか」と信者さん達は感慨しきりであった。2019年夏公開が実現し、岡山史料ネットの活動もあわせて紹介した。

■公開後、これから

公開中に来館された信者さんによると、大日堂の旧地は堤防拡幅工事により立ち退かなければならないとのこと。これから移転先を探し、お堂の再建するのは、生活再建に忙しい中で本当に大変だろうと感じた。修復中、仏像の胎内から「明治21年」

の年銘のある書付が見つまっている。33名もの溺死者を出した明治13年の大洪水の後、再建した時の納入と思われた。「生活を取り戻し、仏像を再びお祭りするまでに8年もの歳月が必要だったので、どうぞ焦らないで」と伝えた。

2019年12月、「地域の文化財を、地域の人にこそ知ってもらいたい」と宝生院から依頼され、修復された仏像について話した。地域の人たち20人ほどが集まり、いつか再開する時には、今回の災害の記録も入れ後世に伝えたらいい、といった話が出た。年明けには信者さんから、復興資金集めが始まった、皆の名前も書いて胎内に入れようと準備をしている、と報告を頂いた。若い僧侶達が救い出した文化財は、史料ネットの関係者や職人さん、そして地域の人々の心を繋いできた。後世にも、この文化財は人を繋ぎ、地域の歴史を語ってくれるだろう。

歴史資料保全活動への支援募金のお願い

被災状況の調査や、被災資料のレスキュー、クリーニング作業など、活動継続のための資金が必要です。募金にご協力いただける方は、下記口座にお振り込みいただければありがたく存じます。

ゆうちょ銀行総合口座（普通口座）

【記号】15470 【番号】38569531 岡山史料ネット（オカヤマシリョウネット）

（他の金融機関からの振込の場合）

【店名】五四八 【店番】548 【預金種目】普通預金 【口座番号】38569531

2019年9月から2020年2月までにご寄付をいただいたみなさまは以下のとおりです。

朝尾直弘・金谷芳寛・永谷美樹恵・渡辺祐子（五十音順、敬称略）

事務局 〒700-8530 岡山市北区津島中3-1-1 岡山大学文学部日本史研究室内

電話 086-251-7442

e-mail okayamasiryonet@gmail.com

URL <http://okayamasiryonet.s1008.xrea.com/>

Twitter @okayamasiryonet

GBFund

芸術・文化による
災害復興支援

●●ファンド●●

企業メセナ協議会